

令和6年度第3回名取市男女共同参画推進委員会 会議録

1 日 時 令和7年1月23日(木) 13:30～14:35

2 場 所 市役所6階 第2会議室

3 出席者

(委 員) 寒河江和樹委員長、岩沼裕子委員、佐藤莉委員、小野寿昭委員、菊地成裕委員、
星真奈美委員、村上寛子委員

(欠席委員) 久米智美副委員長、相原直之委員、入間川徹委員

(事務局) 浅野次長兼課長、佐藤課長補佐兼係長、清野主査

4 会議内容 別紙のとおり。

第3回名取市男女共同参画推進委員会 会議録

1 開 会 司会進行：佐藤課長補佐兼係長

2 委員長あいさつ 寒河江委員長

3 議 題

報告事項

(1) 令和6年度事業報告について

- ・【資料1～4】について、事務局から報告を行った。
- ・委員からの意見等について、下記のとおり。

委 員： 委員会で作成した男女共同参画情報紙について、内容が見やすくまとまっている。広報誌面への掲載だけでなく、より多くの市民の目にふれるよう活用したい。拡大印刷してパネルにし、例年6月の男女共同参画週間や市内人権啓発活動等で展示するのはどうか。駅などに掲示すれば、通勤通学の折に中高校生の目にもとまって、若年層への啓発になるのではないかと思う。

委員長： 事務局への確認として、今年度作成した男女共同参画情報紙を拡大印刷してパネルにし、展示を行うことについて支障はないか。

事務局： 今回の情報紙は、当委員会の名前で作成、発行しているものである。この会議の場で委員から承諾を得られれば、パネル等にして展示することも可能と考える。

委員長： それでは今年度作成の男女共同参画情報紙の活用について、パネル等にして活用することに差し支えないか。

参加委員：（異議なし）

委員長： それでは、委員から出た意見について、事務局には今後の対応をお願いしたい。そのほか、情報紙や委員会活動へのご意見はあるか。

委員：情報紙について、とてもわかりやすい良い文章だと思う。市民の目にふれる機会を設けることは良いと思うが、こういった方法が適しているかは話し合いたい。

委員：広報なとり1月号が届いてから、(男女共同参画情報紙の部分を)何度も読み返し、特に「未来を設計する時、男女共同参画という視点を持つてみる」という部分の文章がよくできていたと思う。いまだに男女共同参画の意識醸成が進まない部分は確かにあるし、若い方々に読んでほしい。例えば、一部の公民館が新築され、来館者の目に就く場所に館内掲示板が置かれて、さまざまなお知らせが掲出されているのを見かける。市内の公共施設内に掲示したり、パンフレットラック等に置いたりするのも良いと思う。

委員：情報紙は文字やレイアウトも見やすく、非常に整理された内容でよくできている。

また、1年間男女共同参画推進委員をして大変勉強になったが、そのうえで、当委員会について2つほど意見がある。

1つ目は、男女共同参画の理念や考え方はだいぶ浸透してきたと感じるが、いまだに男女の性差を差別と受け取る流れがあり、社会の中でもさまざまな意見が出ているところである。社会的制度や賃金の面で性差による不利益はまだ存在しており、これからも働きかけが必要な部分だと考える。2つ目は、第2回委員会のアンケートの中で話が出てきたLGBTQや関連制度等について。こちらは、まだ私自身の中で考え方の結論が出ていない。いずれは社会全体に広がっていく動きかもしれないが、時間をかけて議論していくべき課題だと考えている。

最後に、情報紙の中で「協働」と「共同」の文字が混在している部分がある。少しわかりづらい表現だと感じた。

事務局：情報紙1ページ目の“共同と協働”の混在、“チェック”が“チャック”と誤字表記されている部分について、市民協働課から広報担当課へ提出した時点の記事内容は正しい表記であったため、印刷段階で誤字表記となったと思われる。大変申し訳ない。

委員：今挙げられた誤表記については、読者が文章の流れから十分読み取れる部分なので、問題ないと思う。

委員：情報記事については、第1回委員会の時点に提出された記事案と比較して、適切な位置にイラストや囲み枠が配置されており、レイアウトが大変良くなった。記事内容が大変充実しているので、広報誌に1回掲載しただけで終わるのではなく、複数回に分けて広報掲載することは可能か。今後の参考として伺いたい。

事務局：シリーズのように何ヶ月かにわたって広報誌へ掲載したいということであれば、それは可能である。広報誌のページを買い取って情報紙を掲載しているため、買い取りページ数を調整して、予算の範囲内で対応することとなる。1ページごとではなく、小さい記事として掲示する場合には無料だが、その場合は、確実に掲載できるとは限らず、誌面調整の関係で省かれる場合もある。

委員：内容がとても充実しているので、そういった（複数号にわたって、広報誌に分割掲載する）方法でも良いと思う。

委員：昨年度発行の情報紙第21号と比較して、文字や画像、イラストの使い方が読みやすくなった。前回は今回も、発行後に子どもと読んだが、前回は少し文字が細かい印象があったものの、今回は構成のバランスが良く、非常に読みやすいと感じた。インタビューのまとめ方もきれいにまとまっている。

委員長：第1回委員会の記事案と比べて、非常に見やすくなった印象である。委員のインタビュー記事や名取市の取り組みなど、内容も充実している。先ほど委員から提案があったとおり、市民の目にとまるような工夫が必要だと思う。さまざまな活用が可能とのことで、委員会が出された意見を踏まえて事務局には今後の対応をお願いしたい。

事務局：発行元として“名取市男女共同参画推進委員会”の名前を入れて、インタビュー記事でご協力いただいた委員から顔写真やインタビュー内容の公開に関する承諾をいただければ、パネル等として市内で掲示することは可能である。6月下旬の男女共同参画週間で、正面玄関に啓懸垂幕を掲出する際、あわせて公共スペースにパネルとして置くことも良いかもしれない。

また、2号委員より「自身の所属団体の研修等で配布することは可能か」とご確認いただいたが、広報誌を必要数ご用意してお渡しすることができる。情報紙記事はウェブサイトにも掲示している。

委員：できるだけ若い層に知ってほしいので、そういった人々の目にふれるところが良い。

委員長：委員会で作成したものの活用については、新しい試みとして進めてほしい。若者層は広報誌をなかなか読む機会が少ないかもしれないので、そこは工夫が必要である。

事務局：駅や市民ホール等の公共の場所に展示することをはじめ、当課の男女共同参画イ

ベントの際など、折に触れて啓発の機会を設けていきたい。

委 員： 男女共同参画のイベントについて、来場者へ啓発資料を配布するなどの取組は行っているか。

事務局： 今回の情報紙に掲載しているイベントの際など、対象にあわせてさまざまな方法で啓発に取り組んでいるところである。例えば今年度、子どもやファミリー向けのイベントでは、“アンコンシャス・バイアス”をテーマとしたミニクイズラリーを行った。内容は子どもでも参加できるような、『虹の色は何色?』といったクイズで、回答は『①わからない ②5色 ③7色』から回答を選ぶかたちのもの。色の感じ方や動物、年齢に関わるものなど、3問程度用意した。クイズラリーのゴールでは、それぞれの問題についての解説シートを配布し、自身の回答内容を確認してもらって、無意識の思い込みに気づききっかけを提供した。ちなみに、先ほどの問題は『①わからない』が正解であり、国や地域によって虹の色の描かれ方は異なることを解説シートに記載している。引き続き、工夫して幅広い年代へ啓発していきたい。

委 員： 展示や会場参加のみだと、手元に何も残らないという点が気になった。市の他の委員会にも参加しているが、以前、環境イベントで啓発チラシとウェットティッシュを共に配布した時、チラシのみ配布した時よりも来場者が手に取る確率が高まったと感じた。なにかグッズと一緒に資料を配布することで、多くの方が手にとるかもしれない。予算がかかることなので難しいかもしれないが、意見として述べておく。

事務局： 先ほどお話した子ども向けクイズラリーの際、ゴールでくじ引きを行った。景品はさまざまなイベントで使用されたグッズの残りを集めてきたり、職員等から無償提供を受けたりしたものを使用しているため、令和6年度男女共同参画イベントにおいて、景品の予算はかかっていない。同様に情報紙へ掲載しているイベントだが、市内学校の学校祭で1部屋を借りて男女共同参画ブースを設置した。学生対象ということで、デートDVに関するドラマ上映コーナーや、アンコンシャス・バイアスクイズラリー、啓発パネル等の展示、景品付きのくじ引きなどを行ったが、同じように市内の他イベントで残った啓発品や、職員から無償提供された品物を集めて使用しているため、こちらも景品にかかる予算はかかっていない。今回、委員から景品やグッズの効果を伺ったため、今後なるべく予算をかけずに有効な啓発活動を行えるよう、工夫を重ねていきたいと考えている。

委 員： 他機関のイベントに参加したことがあるが、チラシや冊子のみの場合より、反射材などのグッズと配った時の方が、来場者の注目度や関心度が高かった。

事務局：予算をかけて景品を用意することは考えていない。無償提供された他イベントのグッズでも来場者に喜んでいただけているということもあり、もし景品を用意する場合、今後も同様のかたちになると思う。この取組のかたちに至った理由のひとつとして、以前の委員会でいただいた『男女共同参画イベントの効果を分析するべき』というご意見がある。来場者や参加者の人数、年代、属性等を可能な限り把握し、事業効果の検証を行う際、景品やクイズシートの配布数や配布時のやり取りから、データを収集して分析している。ほかにも、以前の委員からいただいた『男女共同参画情報紙のバックナンバーも活用してはどうか』というご意見を受けて、以降の情報紙にはウェブサイトのバックナンバー掲載ページへ誘導する二次元コードを掲載するなど、この委員会でいただいたご意見を参考に、市の取組を改善してきている。委員にはさまざまなご意見をいただき、感謝申し上げます。

(2) その他

- ・令和7年度第1回委員会について、5月開催予定の旨を事務局から説明。委員から異議はなし。
- ・会議全体に関する質疑応答や次年度委員会活動に対する委員からの意見について、下記のとおり。

委員：市の主な取組に関する報告で『きらめく!名取の人と人実行委員会の“なとりまなびフェスティバル'24”への男女共同参画コーナー出展』というものがあったが、当委員会をこういったイベントにあわせて開催し、イベントで役割分担してスタッフとして参加する、ということができるかどうか伺いたい。年3回の会議のうち、1回をイベント参加に代えるかたちである。

市の他の委員会（環境関係）の委員をしているが、「会議だけではなく、現場にも出てはどうか」という意見が出て、ごみ処理場の見学や海岸清掃を実施したことがある。想像以上のごみの量に、現場を知る大切さを感じた。

事務局：当委員会の会議1回分をイベント参加に代えることは可能である。ただ、男女共同参画コーナー出展等は、基本的に他部署と共催または協力して実施することが多く、他部署や他機関で開催予定の関連イベントについて、開催時期を事務局で早期把握することが難しい。現時点で開催予定のイベントとして把握しているものだと、下増田児童センターの“しもフェス”などがあるが、こういったイベントに参加するとなると、令和7年度第1回委員会における協議事項となる。

委員長：イベント参加については、委員のスケジュール調整のほか、会場までの交通手段の確保等も必要となってくるが、そのあたりはどのような対応となるか。

事務局：もしイベント参加が委員会事業として確定した場合、委員には市役所へ集合していただき、市公用車へ乗り合わせて会場までお送りすることは可能である。

委員長：企画にあたっては、イベント開催スケジュールがどの時点で把握でき、委員会の協議事項として提示されるかが重要である。先ほどの“なとりまなびフェスティバル’24”を例に挙げると、私自身はこの時点での告知だと対応が難しく、当日は仕事の都合で会場へ行くことはできない。スタッフ側での参加となると、会場対応となるため、会場に行ける日程で設定できるかどうかは気になるところである。

事務局：文化会館大ホールが会場となると、施設予約状況からある程度のイベント開催時期を推測することは可能だが、イベント主催者に男女共同参画コーナー出展可否を確認しなくてはならない。そのため、イベント開催スケジュールをお示しできるのは開催の半年～3カ月前となる。令和7年度第1回委員会時点である程度予定を把握して示せるよう努めるので、そこで参加の可否について協議していただきたい。また、イベントは土日開催がほとんどであり、平日に仕事をしている委員方だと休日返上のうえ、いつも通りの委員報酬で半日以上スタッフ業務に従事していただくこととなる。

委員長：自分のスケジュールを考えてみると、大学のオープンキャンパスや試験の対応を行っていたり、学会や研究会への出席を求められたり、土日の仕事も意外と多い。委員会の活動案としてイベント参加を企画することは構わないが、なるべく早く事業案を示してもらえると調整できる部分があるかもしれない。

事務局：それでは、イベント参画において連携できそうな部署や団体に声がけを行い、次の第1回委員会で企画案の概要を示せるよう調整を進める。

委員長：新しい試みとして企画してみて、その後の問題をひとつずつ対処していくという考え方で進めても良いかもしれない。いずれ令和7年度第1回委員会での協議となる。

事務局：まずは第1回委員会に向けて、本日いただいたご意見をもとに事業案を作成する。次年度も引き続き、よろしくお願い申し上げます。

5 閉 会

以 上